

## WG 活動報告

### 17: HLA と移植成績

#### ① WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 神田 善伸	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
池亀 和博	兵庫医科大学病院	血液内科
諫田 淳也	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
森島 泰雄	愛知県がんセンター研究所	疫学・予防部
渡邊 修大	社会保険中京病院	小児科
川瀬 孝和	Fred Hutchinson Cancer Research Center	Program in Immunology
一戸 辰夫	佐賀大学医学部附属病院(2012年12月まで所属)	血液・腫瘍内科
森島 聡子	藤田保健衛生大学病院	血液内科・化学療法科
増子 正義	新潟大学医歯学総合病院	高密度無菌治療部
前田 嘉信	岡山大学病院	血液・腫瘍内科
横山 寿行	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	血液内科
辻 正徳	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
田中 淳司	北海道大学病院	血液内科
宇都宮 與	公益財団法人慈愛会今村病院分院	血液内科
松野 良介	昭和大学藤が丘病院	小児科
小林 武	がん・感染症センター 都立駒込病院	血液内科
高橋 義行	名古屋大学医学部附属病院	小児科
鬼塚 真仁	東海大学医学部付属病院	血液腫瘍内科
鍬塚 八千代	Medical College of Wisconsin (名古屋大学医学部附属病院)	Center for International Blood and Marrow Transplant Research (名大:血液内科)
村田 誠	名古屋大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
玉置 広哉	兵庫医科大学病院	血液内科
矢部 普正	東海大学医学部付属病院	再生医療科学
加藤 俊一	東海大学医学部付属病院	小児科・細胞移植科
金 成元	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
高塚 祥芝	公益財団法人慈愛会今村病院分院	血液内科
和氣 敦	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院	血液内科
小川 淳	新潟県立がんセンター新潟病院	小児科
熱田 由子	名古屋大学医学部附属病院	造血細胞移植情報管理・生物統計学
西田 徹也	名古屋大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
屋部 登志雄	東京都赤十字血液センター	製剤部製剤三課製剤一係長
高梨 美乃子	日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター	製剤部長

星野 匠臣	群馬大学医学部附属病院	血液内科
芦田 隆司	近畿大学医学部附属病院	血液内科
藤 重夫	国立がん研究センター中央病院	血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
坂本 佳奈	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科

## ② 2012 年 12 月末時点で承認された研究、及び業績一覧

17-1	「GVHD が生じると GVL 効果があるのは事実か？:血縁、非血縁ドナーからの造血幹細胞移植における HLA 座適合度別解析」 PI: 森島泰雄
解析中	
17-2	「アジア・太平洋地区における HLA を基盤にした人種別同種移植免疫反応の比較解析」 PI: 森島泰雄
海外施設データ収集中	
17-3	「非血縁者間骨髄移植における年代別のアリル不適合の影響」 PI: 神田善伸
<p>学会発表: 神田善伸他 HLA アリル不適合が HLA6 抗原適合非血縁者間骨髄移植成績に与える影響の経時変化 第 74 回日本血液学会総会 プレナリーセッション 京都 2012 年 10 月</p> <p>論文業績: 投稿中</p>	
17-4	「非血縁者間臍帯血移植(UCBT)における HLA 不一致度と感染症発症頻度」 PI: 加藤俊一
解析中	
17-5	「非血縁者間骨髄移植(UBMT)における HLA 抗原(血清型)不一致移植成績」 PI: 加藤俊一
解析中	
17-6	「Reduced intensity conditioning を用いた非血縁者間骨髄移植における HLA 不一致の影響」 PI: 横山寿行
<p>学会発表: 横山寿行 他 第 35 回日本造血細胞移植学会(平成 25 年 3 月 7 日-3 月 9 日)、石川県立音楽堂</p>	
17-7	「HLA 適合血縁者間移植と HLA 適合非血縁者間移植における HLA ハプロタイプ、HLA 型に基づく移植免疫反応の解析」 PI: 森島聡子
解析中	
17-8	「KIR リガンド不適合が移植成績に及ぼす影響の検討」 PI: 田中淳司
<p>学会発表: 田中淳司他 KIR リガンド不適合が移植成績に及ぼす影響の検討 平成 24 年度厚生労働省免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業「移植細胞源を異にする非血縁者間造血細胞の組織適合性に基づく成績向上と移植選択アルゴリズムの確立に関する研究」班(森島班)平成24年7月8日(日)</p>	
17-9	「造血幹細胞移植における HLA 型・HLA ハプロタイプ型と感染症発症頻度」 PI: 川瀬孝和
解析中	
17-10	「複数回造血細胞移植実施時における HLA 適合性の検討」 PI: 前田嘉信
解析中	
17-11	「T 細胞除去を用いない HLA 不一致親子間移植においてレシピエントとドナーとの血縁関係が移植成績に与える影響の検討」 PI: 一戸辰夫
<p>学会発表: Tatsuo Ichinohe, et al. Impact of parental donor type on outcomes after HLA-matched and HLA-mismatched T-cell-replete hematopoietic cell transplantation in patients with leukemia: a retrospective cohort study. 54th Annual Meeting of the American Society of Hematology (December 8-11, 2012), Georgia World Congress Center, Atlanta, GA, USA.</p> <p>論文業績: 執筆中</p>	

17-12	「非血縁者間臍帯血移植における HLA 不適合度と移植成績」 PI: 熱田由子
<p>学会発表: Yoshiko Atsuta, et al. 38th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation, 1-4 April 2012, Geneva, Switzerland</p> <p>Yoshiko Atsuta, et al. The 74th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology, 19-21 October 2012, Kyoto, Japan</p> <p>論文業績: 投稿中</p>	
17-13	「非血縁者間臍帯血移植における GVH 方向 HLA 不適合あるいは HVG 方向 HLA 不適合が移植成績に及ぼす影響」 PI: 諫田淳也
<p>学会発表: 諫田淳也 他 第 74 回日本血液学会学術集会 (平成 24 年 10 月 19 日-10 月 21 日) 国立京都国際会館</p> <p>論文業績: Kanda J, Atsuta Y, Wake A, Ichinohe T, Takanashi M, Morishima Y, Taniguchi S, Takahashi S, Ogawa H, Ohashi K, Ohno Y, Aotsuka N, Onishi Y, Kato K, Nagamura-Inoue T, Kanda Y; HLA Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Impact of the Direction of HLA Mismatch on Transplantation Outcomes in Single Unrelated Cord Blood Transplantation. Biol Blood Marrow Transplant. 2012 Oct 3. [Epub ahead of print]</p>	
17-14	「非血縁者間骨髄移植における年代別の高リスクアレル不適合の影響」 PI: 神田善伸
解析中	
17-15	「第一寛解期急性白血病に対する同種移植における、ドナー選択に関する臨床決断分析—GVH 方向 HLA 一抗原不適合血縁者と HLA8/8 アレル適合非血縁者の比較」 PI: 諫田淳也
<p>学会発表: 諫田淳也 他 第 35 回日本造血細胞移植学会 (平成 25 年 3 月 7 日-3 月 9 日) 石川県立音楽堂</p> <p>Junya Kanda, et al. 2013 BMT Tandem Meetings (13-17 Feb 2013), Salt Lake City, UT, USA</p>	

### ③ 会議開催記録(2012 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
2012/1/8	東京医科歯科大学	定例会議(特に TRUMP の HLA データについて)
2012/10/19	京都国際会議場	研究 17-4 に関する会議

### ④ メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2012 年 11 月末時点)

(659)回

### ⑤ WG の今後の活動方針・抱負など

現在、HLA-WG では 15 件の研究が進行中である。H24 年は 2 回の会議の開催に加えてメーリングリスト上でも活発な議論が行われ、メーリングリストの発言件数は既に 659 件に達している。H23 年には学会、論文発表には至らなかったが、HLA データのクリーニングスクリプトが完成したことにより、H24 年は多数の学会発表に加えて 3 本の論文投稿(うち 1 本は既に accept)に至っている。データクリーニング用の R および Stata のスクリプトは造血細胞移植学会のホームページで公開しており、全 WG で利用することが出来る。これらのツールを活用して、今後はさらに多くの研究が発展していくことが期待できる。